

平成 22 年度環境技術実証
閉鎖性海域WG (第 2 回)におけるご指摘への対応方針

| | |
|-----|---------------------------------|
| 会議名 | 閉鎖性海域における水環境改善技術 WG 会合(第 2 回) |
| 日 時 | 平成 22 年 6 月 14 日(月) 10:00～11:30 |

| | |
|-------|---|
| 指摘番号 | 閉海 WG2 資料 3 |
| 指 摘 者 | 松田検討員、上嶋検討員 |
| 指摘内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全性を確認した材料について、どの発電所でどういう石炭を使ってできたフライアッシュかを特定するのは難しいのか？ ・試験に用いる材料の発生過程と加工方法等を示していただきたい。 |
| 対応方針 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全性を確認した材料は、中国電力・新小野田発電所で、瀝青炭を使ってできたフライアッシュである。 ・試験に用いる材料の発生過程と加工方法等を報告書に記載する。(P.4 の 2～6 行参照) |

| | |
|-------|---|
| 指摘番号 | 閉海 WG2 資料 5 |
| 指 摘 者 | 松田検討員、上嶋検討員 |
| 指摘内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・実証対象技術(資料 2)のかごの吊り下げ実験が、大河漁港の袋詰め造粒物を海底に置くとか、試験コアを設置するような実験に代わっているが、それぞれの試験に期待する目的と試験内容の変更経緯を説明していただきたい。 ・それぞれの試験目的と試験計画設定の経過を明示しておくことが好ましい。 |
| 対応方針 | <p>〔変更した試験に期待する目的〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コア試験」は、石炭灰造粒物の吸着効果を確実に確認すること期待して、コア中に石炭灰造粒物を詰めて横からの海水浸透を抑制した条件下で試験を行った。 ・「覆土試験」は、覆土による吸着効果の把握を目的に、石炭灰造粒物を一定区画に敷設して、石炭灰造粒物の効果の実証を行った。 <p>〔試験内容の変更経緯〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証対象技術応募資料にある柳井発電所棧橋での吊り下げ試験については、生物の着生効果の確認を計画していたが、専門家(実証委員会委員)の指導・助言を得て、実証試験場所を環境改善効果が確認しやすい広島湾の比較的水質汚濁が進んだ海域に変更し、底質・水質の改善と生物生息環境の改善効果の確認を目的とした試験計画に変更した。 <p>〔試験変更の明示〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前記内容を P.1 の 10～13 行に記載しました。 |

| | |
|------|--|
| 指摘番号 | 閉海 WG2 資料 5 |
| 指摘者 | 松田検討員 |
| 指摘内容 | <p> 栈橋1の試験の対象区として設置する塩ビコアの中は嫌氣的になったり、懸濁物量が増えたりするため、パイプの上まで現地泥を入れてしまったほうがよい。 </p> |
| 対応方針 | <p> 指摘のとおり、パイプの上まで現地泥を入れて試験を実施した。 </p> |

| | |
|------|--|
| 指摘番号 | 閉海 WG2 資料 5 |
| 指摘者 | 岡田座長 |
| 指摘内容 | <p> 実証試験計画において、実証技術申請者が実証試験への転用を求める既往データのうち、技術実証委員会で了解するものについては採用し、了解できないものは削除していただきたい。 </p> |
| 対応方針 | <p> 指摘のとおり対応する。 </p> |